

八尾市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅 ニュースレター

# 旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

NEWS LETTER

発行部数 3,000 部

Vol. 36

2018年4月発行

冬季企画展

昔のくらしシリーズ  
:衣の道具

年末行事・年度末

2017から2018へ

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

## 展示のご案内

平成30年度 企画展

# 植田家にのこる 絵図と地図

公文書絵図から観光地図まで

2018年  
4/28(土)  
▼ 春休期中、一部観覧日あり  
7/16(祝・月)

休館日：火曜日、5/2(水)・7(月)・9(水)  
[開館時間] 9時～17時 (入館は16時30分まで)  
[入館料] 一般250円、高校・大学生120円  
中学生以下は無料

植田家の故郷!?

八尾市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25 TEL 072-992-5311

「大塚山図」七校の内訳と「式下」の扉に「植田」の印 (享保年間)

平成30年度 企画展

### 「植田家にのこる絵図と地図」

2018年4月28日(土)～7月16日(祝・月) ※休館日はP15をご覧ください

“まっぶ”ファン必見！植田家にのこる近世～現代までの絵図や地図を紹介します。

# Contents

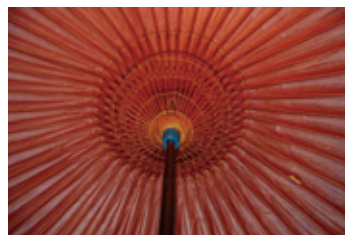
- 4 冬季企画展  
昔のくらしシリーズ：衣の道具
- 6 こどものイベント(お茶会&手習い所)
- 7 各種講座のまとめ(市史を読む会&伴林光平)
- 8 年末行事・年度末  
2017から2018へ
- 10 旧家で芸能・伝統文化～落語の会～
- 11 四会所だより(16)-鴻池新田会所-
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記 ③⑥
- 13 植ちよピ(旧家で記念撮影～成人の日・ひな祭り～)
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



## 表紙写真

### 《和傘(内側)》旧植田家住宅所蔵

江戸時代に作られるようになった日本独自の傘。柿渋などをぬった油紙を骨組みにはって作られる。旧植田家所蔵の「衣」の道具を紹介する冬季企画展「昔のくらしシリーズ：衣の道具」は4・5ページに掲載。



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。  
<http://kyu-uedakejutaku.jp>



木綿の消防法被と胸当(中)



消防法被(印半纏)



子供用リュックサック



こどもの着物とアイロン



家紋入胸当



身だしなみの道具(櫛、剃刀、白粉etc)

- 冬季企画展 -

昔の暮らしシリーズ:

い

衣

の道具



スチームアイロン



針箱

平成30年1月5日(金)ー3月11日(日)



鏡台

下駄っ、

ゲタっ♪

ゲタっ♪



はっ!?



木床義歯



とんび(男性用コート)



草履



丸めがね



針箱と作りかけの着物



和傘(唐傘)



昔の履き物 (下駄と草履)

## 冬季企画展「昔のくらしシリーズ：衣の道具」

毎年1月から3月にかけて開催する「昔のくらし」の企画展では、今年度から「昔のくらしシリーズ」として、私たちの生活にとって不可欠な「衣食住」の民具展示を行なっている。今回は2018年1月5日(金)～3月11日(日)の期間中、「衣の道具」展を開催した。

「衣・食・住」(衣服・食物・住居)は、いつの時代においても人々のくらしにとって必要なものであり、それぞれを支える道具には時代や地域によって様々な違いがみられる。とりわけ時代における道具の変化(進化)は大きく、今なお形を変えて使われているものや、現代ではほとんど見られなくなつたものも多くある。本企画展では、こうした時代の変遷をたどり、今のくらしについて考える機会として、江戸時代から昭和時代まで実際に植田家が使用してきた「衣」の道具を、「日常の衣」「移動の衣」「祝いの衣」「いろいろな衣」の四つのテーマで展示を行なつた。

「日常の衣」には、大正から昭和初期のものと思われる《作りかけ(縫製途中)の着物》と《こどもの着物》、《針(裁縫)箱》を展示。また昭和中期の《スチームアイロン》もあり、現代と

### 下駄に乗る犬!



根付(ねつけ。現代でいう携帯ストラップの様なもの)



着飾る道具(櫛、笄、簪、印籠、根付etc)

の「着ること」に対する日常の違いが感じられた。身だしなみについても、櫛をはじめ、鏡台、歯ブラシ、剃刀など道具の進化がみられる。

「移動の衣」「祝いの衣」では、内(家)と外との考え方がよく分かる各種着物を展示。和装が中心の大正～昭和初期に流行した男性用のコート《とんび》や下駄・草履といった履き物には当時の人々の創意工夫が見られた。また技巧を凝らした和傘にもこだわりが備わっており、その他、各場面に応じて使用された河内木綿製の道中着一式(旅の装い)や消防法被なども含め、昔のくらしにおける「衣」への想いや植田家のくらしぶりについて見ることができた。次回、来年は「食の道具」を展示予定。

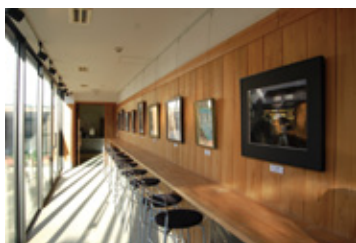
(旧植田家住宅学芸員 安藤亮)

## ギャラリー展示2017

2018年1月5日(金)～31日(水)までの期間は、展示室に併設するギャラリーにて「ギャラリー展示2017」(旧写生作品展示)を開催しました。「新旧大和川と新田会所の風景」をテーマに、2017年10月から12月まで一般公募し、全9作品の応募がありました。

ギャラリーは平時、各施設や博物館などの情報発信や入館者の休憩場所として活用されていますが、この期間中はアート・スペースに変身。今回は、絵画作品に加えて写真や貼り絵の作品もあり、表現の幅が一層広がりました。

作品はどれも力作ぞろいで、様々な角度から大和川の歴史と現在のまちなみを知ることができました。まだまだ魅力ある大和川と新田の風景を、今後もどうぞお寄せください。



様々な表現された新田跡の風景

体験  
連続講座 2018年

てなら じよ 遊  
手習い所



2018・1・21(日)



新春企画 こどものための  
ちや かい  
お茶会



2018・3・25(日)



こどものためのお茶会

4歳児から中学生までを対象に毎年行なっています「こどものためのお茶会」を1月21日(日)に実施しました。インフルエンザ流行の時期でもあるので、その影響が心配でしたが、午前と午後の計三席で37名の参加がありました。

最近、親子で参加ができるイベントに人がよく集まると聞きますが、小学生未満のお子さんと一緒に場合が多いようです。旧植田家住宅の畑企画やこのお茶会にも、小学生以下の子どもが増え、さらにその子の妹や弟も一緒にということがあります。

今回も小さな子がたくさんの中、小学生のお姉さんたちはお手本を見せるように、お茶の先生からやさしく作法を教わり、お茶をいただきました。

(旧植田家住宅 スタッフ)



苦い?それとも美味しい?

連続講座「手習い所」巻・式」



ハサミで切る線を慎重に確認

今年度から「むかしの遊び」をテーマに、ものを見て・聞いて・考えて、作ったり遊んで学ぶ連続講座「手習い所」を開講しました。対象は小学3年生以上(大人も可)。2月と3月の全二回の講座でしたが、初回(巻)は申込みがなく不開講に。気を取り直し、第二回目(式)は、地域のご協力もあり、18名の参加となりました。

そもそも「手習い所」(＝寺子屋)とは何かをまずは説明し、数字の読み方の勉強や紙と筆記用具があればできる簡単な脳トレ遊びにも挑戦しました。今回は、昭和51年(42年前)の新聞に掲載されていた「ハガキの紙飛行機」作りをメインに行ない、こどもたちは完成をイメージしながら一生懸命に取り組んでいました。

(旧植田家住宅 スタッフ)

## 各種講座のまとめ



平成29年12月10日(日)

『新版 八尾市史 近世資料編1』で読む植田家文書



『新版 八尾市史 近世史料編1』表紙



伴林光平/短冊「瀧邊蟬」旧植田家住宅蔵

歌人・国学者・勤皇志士である伴林光平翁を辿る



平成30年2月17日(土)

### 『新版 八尾市史 近世資料編1』で 読む 植田家文書

『新版 八尾市史 近世史料編1』（平成29年10月第一回配本）に収録された「植田家文書」を、古文書の現場である安中新田会所跡旧植田家住宅にて、「寺子屋」スタイルで読み解く講座が、平成29年12月10日(日)八尾市史編纂室の主催で行われた。同会では、植田家文書の紹介と解説として、『新版 八尾市史』をテキストに用い、それぞれ2名の調査員（執筆担当者）と、市史編纂委員長でもある藪田貫氏から諸々の報告（メッセージ）があった。『近世史料編1』を刊行して―特色及び編集方針や使い方―として述べられた総括では、編纂までの苦労やその意義について触れ、資料を遺していくことの意味や重要性を強調された。一家に一冊、必携の価値あり『新版 八尾市史』は、旧植田家住宅でも絶賛取り扱い中。



藪田氏の話に聞き入る会場

### 歌人・国学者・勤皇志士である 伴林光平翁を辿る

「八尾の歴史」をテーマにした今年度最後の講座は、2月17日(土)、NPO法人八尾市観光ボランティアアガイドの会・二保泰士氏に、八尾に縁のある人物「伴林光平」についてお話をいただいた。知る人ぞ知る八尾の隠れた偉人・伴林光平は、現在も各所でその名が知れ渡っている。本講座では、タイトルが示すように、光平の生い立ちから最期に至るまで、その足跡を、歌を交え、観光さながらに時間いっぱい語られた。また、京都の獄中で記したといわれる「南山踏雲録」については、時間の都合により一部のみが紹介され、後は詳細な資料が配られた。光平についてはまだ研究の余地があるとのこと、今後の展開が楽しみな人物の一人でもある。



伴林光平の歌を詠む二保泰士氏

# ・年度末



年度末になると、畑や地面をつつきにやって来るツグミ。屋根の上でひと休み。

平成30年

# 2018へ

平成30年(2018)は、旧植田家住宅の開館10年目の年になります。いつの間にか、当時小学生だった常連のこどもたちは、高校や大学へ進学し、社会人となり、入館料が必要な年齢になっていきます。大きな節目の中には、年末・年度末のような小さな節目があります。これまでの9年間と比べると小さな節目ですが、その中で変わっていったことや、変わらないでいるものがまだまだたくさんあります。

## 12/3「旧家で食事会」

開館当初より、年に一回の開催で定員20名のまま、現在も継続する「旧家で食事会」は、旧植田家所蔵の食器で「なにわの伝統野菜」を使った料理を頂くという目玉企画です。今年度から一部名称を変更していますが、「旧家で愉しむ食事会」のコンセプトを引継ぎ、今年も「醸菜松やま」(八尾市北本町)さんに料理の提供をしていただきました。

夜間見学会、多種多様な食器、味覚と視覚を愉しませる料理、かまどのご飯、座敷の雰囲気など、会話は弾み、いつものように参加者からは「満足！」の感想をたくさん頂きました。次回もまたあれば参加したいとい

実施しています。冬の今回は、年末の大掃除をテーマに「障子の張り替え」を体験してもらいました。

障子のある家が少なくなってきた現代では、障子紙を張り替えたことのある人も減っています。ただし、紙を破りたいという衝動(憧れ)はいつの時代もあるようで、まずは古くなった紙を破ってみる体験をした後、その後悔を胸に、張り替えの苦労と楽しさを実感しました。終了後、綺麗になった障子は無事「おばあさんの部屋」に戻されました。



思いっきり破ってみる



まずは植田家についての座学



座敷のガイドで雪見障子を開閉



# 年末行事

# 2017から



平成29年



食事会



おもちつき



昔のくらし体験

12/9「こどもガイド養成講座」として始まったこの企画も、現在は「体験講座」として、より身近に旧植田家住宅や昔のくらしについて子どもたちに学んでもらえる場となっています。年2回開講の本講座では、旧植田家住宅のガイド体験と、季節に応じた昔のくらし体験を



旧家の雰囲気にも会話も弾む



食事会前の夜間見学会の様子



味も彩りも美しい料理と食器

う声もあり、早くも気分は来年の師走です。

## 12/23「おもちつき大会」

3月の年度末を待たず、年末の恒例行事「おもちつき大会」で一年が締め括られます。今や「参加しないと年を越せない」と言われるほど欠かせない行事となり、一年の中で最も入館者がある日でもあります。そんな「おもちつき」が果たす役割は様々で、一番はやはりこの施設を通じて来館者が元気になれることだと思います。2018年度もまた新たな気持ちでスタートを切りました。



おもちつきで一年を締括り



一年中、大活躍のかまど



ついたおもちを丸める作業中

# 落語の会

平成30年(2018)  
2月10日(土)

出演：素人寄席 天満天神の会



八軒家けん市「花筏」



天神亭 みょう雅「転宅」



天神亭 蝶九「持参金」



天満家一軒「子ほめ」

## 旧家で芸能・伝統文化（落語の会）

落語、講談、演芸、演劇、邦楽など…旧家を舞台に様々な芸能・伝統文化の企画を行なう「旧家で芸能・伝統文化」では、昨年6月の「講談とのこぎり音楽の会」に続き、今回「落語の会」を開催。これまで「旧家で楽しむ落語会」として毎年継続している企画でもあり、お馴染みの天満天神の会の方々にも出演いただいた。

大勢の参加者が集まった会場では、今回初登場の天満家一軒さんの「子ほめ」から和やかに始まり、続く元八尾市の小学校教員の天神亭蝶九さん（2回目）が「持参金」を披露した。その後、昨年から連続出演となる天神亭みょう雅さんと八軒家けん市さんが続いて登場すると、昨年とは違った演目でありながら、安定した口演に会場が沸いた。とくにトリを務めるけん市さんの「花筏」<sup>はないかだ</sup>は、何かと世間をにぎわす相撲の噺とあり、その熱演とあいまって、本企画の最後を華々しく飾った。

今後も「落語の会」は継続し、その他のジャンルの芸能伝統文化も企画したい。

（旧植田家住宅スタッフ）

# 四会所だより (16)

## 窓ばかり見て歩く



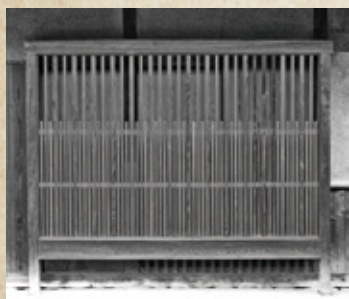
梅の花が開き始めた3月の暖かい日に、某銀行の顧客サービスの催しで、やや高齢の方が約40名が会所へ見学にお越しになりました。その準備にあたって企画者から、古建築について少し詳しい説明をしてほしいという要望があつたので、ご来館の方にふだん差し上げるパンフレットには記されていない建造物の説明をレジュメにしてみました。とはいえ、建築関係者にはたやすいことかもしれませんが、建造物の説明



火の見小屋(受付)の燈明窓



米蔵の窓(内部)



裏長屋門の出格子



本屋クチノマ、廁の地下窓

というのは、暮らしに不可欠であるにもかかわらず、自宅でさえ適確に説明できるかどうか疑わしい。たとえば重要文化財の屋敷蔵―土蔵造、桁行4間(7.8m)、梁間2間半(梁間4.9m)、二階建、切妻造、本瓦葺。大壁漆喰塗仕上げ。外部の壁は高さ2.1mの腰板。柱はほとんど通し柱(2.3丁継ぎ)。床下はタタキ。花崗岩切石積の石垣。布基礎石は兵庫県龍山産凝灰岩で、ほぞ穴をあけ柱を固定。床束石は自然石。などという記載で建物を実感できるはずはなく、結局は現場であれこれ指差しし、見えない部分は手振り身振りし、詳しい部材や構造の名前も思い出し、他の蔵とも比較して、屋敷蔵の表情をつかんでいただけ

るよう汗をかくことになりました。そしてこれが聞いて楽しいかという、必ずしもそうでもありません。当日の説明のなかで、古建築の観察法のひとつとして「窓ばかり見て歩く」ということでした。窓は大雑把に言って、光や空気を通し、人は出入りしない穴ですが、現代建築のようにアルミサッシなどで規格化された窓ではない穴が当会所にはあちこちにあります。少し写真で示しますが、建物の種類や場所、建造年代によって異なります。どうぞ窓を見にお越しください。

(鴻池新田会所 松田順一郎)

### ●鴻池新田会所

- ・東大阪市鴻池元町2-30
- ・JR学研都市線「鴻池新田」駅下車、南東に徒歩5分
- ・10時～16時開館(月曜日、祝日の翌日は休館)
- ・大人300円 小・中学生200円
- ・<http://www.bunkazaishisetsu.or.jp/>



# なにわの伝統野菜 栽培日記

No.36

大根とはうってかわり…

## 『ちっちゃすぎるde賞』



昨年などは収穫したものを井戸で洗っている、入館者の女性から、「立派やなー、売ってくれへん？」なんてこともあったのだが(笑)

「先っちょないやん！  
〜金時人参編〜」



先っちょ、ないやん！



でっかいde賞の田辺大根

いっしょうけんめいに収穫するも…



先っちょないやん！ウスイエンドウめりえ

「先っちょないやん！  
〜ウスイエンドウ編〜」

苗ポットから植え替えた途端、新芽という新芽を全て鳥に食い尽くされ、パアに。公の施設ということを配慮し、見た目重視でネットや防鳥糸を張るも、すき間から入られ、再度植え替えたが、次の日にはまた同じように先っちょが全部ない…。

何かあった時のためにと「2月まき」で作っておいたラスト数本の苗。もはや、プランターでは見た目など一切気にされなくなり、無造作にネットを巻き付けられたこの苗たちが今スタートダッシュしている。

※11月〜2月までに計4回も種をまき…



# マンジーくん

安富士 暁



「植田家住宅のちよっとしたトビックス」

話題

## 植ちよぴ。(ックス)

### ◆旧植田家住宅で新成人をお祝い!

2018年1月6日(土)〜15日(月)

新年を迎え、今年も新成人を祝う「成人式」が1月8日(日)に八尾市内で行なわれた。これにあわせて旧植田家住宅でも成人の日を記念し、「旧家で記念撮影〜成人の日〜」を成人式前後の期間中に実施した。

八尾市によると、今年度の市内における新成人の数は2千8百78人。全ての新成人が旧植田家住宅へ「記念撮影」で訪れるとすれば、施設の

開館以来、初の快挙となる。という皮算用を企てながら、座敷の金襴(鶴)とともに新成人の来館を心待ちにした。

成人式当日はあいにくの空模様。待てど暮らせど姿はなく、せめて一人でも…、という願いが通じたのか、開館当初から旧植田家住宅を利用する新成人のお姉さん(当時小学生)が、素敵な着姿で家族と共に訪ねてくれた。これには、スタッフ一同感激!と同時に、時の流れの早さを実感するばかりであった。これから成人を迎えられる皆様も、ぜひ来年は旧植田家住宅へ。



座敷にて成人の記念撮影

### ◆旧家で記念撮影〜ひな祭り〜

2018年2月17日(土)〜3月18日(日)

前号と前に引き続き、もうひとつ「旧家で記念撮影」の話題。旧植田家住宅の座敷2では、毎年季節に応じて、3月は七段飾りの「おひなさん」を飾っている。今回はこの「おひなさん」と一緒に記念撮影ができる「旧家で記念撮影〜ひな祭り〜」を3月3日の前後1ヵ月間で開催した。

何かイベントを行うわけでもなく、ただ写真が撮れるだけなのだが、来館者も多く訪れ、それぞれ満足気な様子で記念撮影を楽しんでいる。「ひな祭り」はやっぱり「祭り」である。

そんな中、小さなお客さんたちが「ひなまつりのうた」を歌い、みんなで「ひな祭り」を楽しむ光景があった。上段から下段まで順に確認するように目を輝かせ、フルコーラスで4番まで歌い上げた。この日、おひなさんたちにとっても忘れられない思い出となっただろう。



「関西風(古式)」に飾られたおひなさん(“おひなはん”)

## 落穂拾い

## ― 今東光の董風 ― (三十)

文・伊東健

明治三十(一八九七)年四月生まれの東郷青児と明治三十一(一八九八)年三月生まれの今東光とは、同学年になります。あべのハルカスで二月から始まった「生誕百二十年東郷青児展」を鑑賞しながら、二人の関係について思いを馳せました。

二人の出会いはい、互いがティーンエイジャーの時にまで遡り、その付き合いは生涯に渡りました。画家を目指していた東光が、東郷を知った時の衝撃について、次のように書き残しています。

東郷青児にはじめて会ったのは僕の十八歳の時だった。その年の二科展で彼は二科賞を受けた。十九歳だった。僕はこんなのが天才というのではあるまいかと思った。と言っつのは二科会でさえ彼は満足していなかった。他に新しい芸術を容認する展覧会が日本に存在しないから、是非なく出品したのだと嘯うなづいたには啞然と

した。

文展の一科から分離して敢えて二科と称した意気まぶ熾さかんな二科会を、彼は厚化粧をした大年増のように嘲笑したのだ。神戸から上京したぼっと出の僕は二科展を見るだけでも新しい日本画壇の息吹きを吸収できるかと胸を膨らませていたのに、彼は頭から冷水をぶっかけるような言い草なのだ。そして彼の口を衝ついて出る新しい作家の名はカンディンスキーであり、ピカピヤであり、ピカソなのだ。臍へその緒切って生れてはじめて聞く名前を覚えるだけでも大変なのに、彼は滔々たうたうと新しい革命的美術論を聞かせたものだ。(中略)

彼にすすめられて二科に出品して見事に落選した僕は、こんな天分豊かな友達と到底並びようがないと思惟しゆいして小説など書き散して今日に至ったが、彼が今日、二科会の会長たることは当然至極の道程みちだったと思っつ。

(「アサヒグラフ別冊日本編8美術特集 東郷青児」  
昭和五十二(一九七七)年五月十五日、朝日新聞社  
発行所収「東郷青児に就いて一言より」)

当然の道程とは書きながらも東光は、東郷が作風を変化させるために努力を惜しまなかった姿も同時代体験していることを書き残しています。

(前略) その時に持参した彼のフランスの作品は「これが」

と眼を疑うような作品ばかりだった。もう其所には一片の未来派の片鱗うろこもなかった。彼女から聞いた話では、東郷はラファエルの克明な模写からはじめていたというのだ。ああ何たることであろう。まるで画学生に舞ま戻ったのであろうか。

けれども今日から考えるとルネッサンスのラファエルの模写をやりとげるところに東郷の努力の跡が見られる。彼は文字通りフランスで初歩からの仕上げをしたのだ。(中略)

未来派を蟬脱せんでつするにはラファエルから出発すべきだということを誰が教えたのであろう。東郷が自分で発明したか、誰かによって啓発されたか知らないが、とにかく怖るべき努力だけはわかるのだ。

(「東光金蘭帖」昭和五十三(一九七八)年八月十日、  
中央公論社発行より)

天才東郷青児の努力を眼前にしなから、冷静に分析をする東光の確かな鑑賞眼も忘れずに、この稀有な二人の生誕百二十年を祝したいと思ひます。



【2018年5月～7月】

# 旧植田家住宅のご案内

## 今後の展示・企画

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」  
 // 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

### 展示

◎4月28日(土)～7月16日(月)  
 企画展「植田家のにこる絵図と地図」  
 ◇5/5(土・祝)ギャラリートーク(学芸員の立ち話)  
 ①13:30、②14:30 - 各20分程、同内容

◎7月20日(金)～9月2日(日)  
 通常展「大和川付け替えと  
 植田家の收藏品～工芸品編～」

展示、イベント等のお知らせは  
 ホームページをご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



### 企画

(詳しくはお問い合わせください)

- 5月**
- ～5月13日(日)まで 旧家で記念撮影～こどもの日～
  - 16日(水) ボランティアガイド養成講座①
- 6月**
- 2日(土) ぶらりまちあるき～長瀬川・八尾寺内町周辺～
  - 16日(土) 講座「八尾の芸術文化について(仮)」[講師:大久保充代氏]
  - 20日(水) ボランティアガイド養成講座②
- 7月**
- ☆7/14(土)～9/9(日) 納涼企画「冷やし旧家、はじめました。」
  - 25日(水) ボランティアガイド養成講座③
  - 27日(金) こどもガイド体験講座(夏)



## 休館日カレンダー

■ = 休館日

■ はイベント開催日

5 May

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6 June

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7 July

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

●開館時間: 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

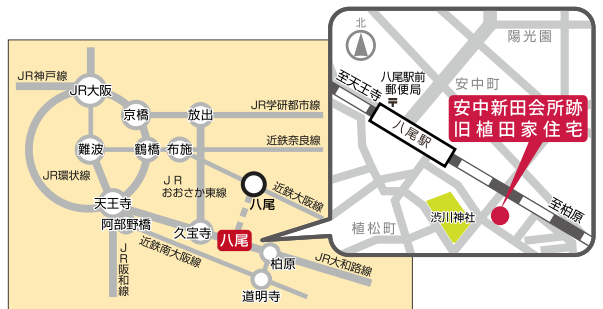
●休館日: 火曜日・祝日の翌日・年末年始  
 (詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料: 一般250円(団体20人以上で120円)  
 高校・大学生120円(団体60円)

※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者および介助者は無料

●お問い合わせ・見学のご相談 ※施設案内(無料)、講座室利用(有料) etc.  
 〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25  
 TEL/FAX: 072-992-5311  
 E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



- ◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分
- ◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前  
 JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

# 本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。  
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、  
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう  
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。  
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、  
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、  
地域経済を活性化させたいと思っています。

